

令和6年度「尾道版『学びの変革』推進事業」に係る
研究推進実施計画書

尾道市立浦崎中学校 校長 高橋 敦志

1 学校経営構想 (別紙)

学校経営目標

感性豊かに、しなやかに、たくましく生き抜く人間の育成

スクールミッション

地域力を生かし 「オール浦崎」で取り組む 主体的に学ぶ力の育成

目指す児童生徒像

自主 課題を見つけ、自ら学び、解決していく生徒
自立 たくましく進路を切り拓く生徒
共生 仲間とともに伸びる生徒
創造 感性豊かで、創造的な生徒

2 教育研究構想 (別紙)

3 研究の概要

(1) 研究主題・副題

主体的な学びを促す授業の創造

～課題を見つけ、自ら学び、解決する生徒の育成を目指して～

(2) 研究主題の設定理由

本校は、「一人1研究授業」や全体総合（未来貢献プロジェクト）の充実に取り組んでいる。一人1研究授業では、①単元やそれぞれの授業における「つきたい力」を明確にした指導（ゴールを明確にした指導）、②「単元を貫く課題」を設定する等、生徒に見通しを持たせ興味関心を高める工夫を取り入れた言語活動の充実、論理的思考力・表現力の向上を図ってきた。また、全体総合（未来貢献プロジェクト）では、総合的な学習の時間に、地域の「漁業」「農業」「社会」に関する探究テーマごとに9グループに分かれ、「持続可能な地域社会」のための未来貢献の在り方を探究する活動を行うことで、主体的に学ぶ力の育成に取り組んできた。

しかし、近年はコロナ禍による集団思考や発表の機会の減少のため、思考力・表現力や主体的に学ぶ力の定着と向上に課題が残った。このことは、生徒アンケート結果からも明らかである。

本年度は、一人1研究授業をリレー形式で行い、発展させる。なお、副題は本校の目指す生徒像を掲げ、ゴールイメージを明らかにしている。

(3) 研究のねらい

- ①一人1研究授業等を通しての授業改善で、生徒一人一人の論理的思考力・表現力を育む。また、重点的に取り組んできた内容である「問い（単元を貫く課題や中心発問等）」を継続し一層の充実を目指す。
- ②総合的な学習の時間等において、課題発見・解決学習の充実を図ることで、主体的に学ぶ力の育成を目指す。
- ③自己肯定感を育成するために、浦崎認定こども園・浦崎小学校との15年連携教育の充実を図り、「15のゴール」を意識した教育活動を展開する。

(4) 研究仮説

- ①主体的に学ぶ力の育成を目指し、(ア)単元構成、(イ)「問い（課題等）」の設定、(ウ)評価の工夫の3点を意識した授業づくりを行えば、生徒の思考力・表現力が向上し、主体的に学ぶ力が向上するであろう。
- ②総合的な学習の時間において、地域を題材とした課題発見・解決学習の充実を図れば、課題解決能力等が育成でき、主体的に学ぶ力が向上するであろう。
- ③小中の児童生徒等による交流活動を計画的に実施し、浦崎に育つ子ども達の自己肯定感が向上するであろう。

(5) 研究内容（研究の方向）

- ①一人1研究授業等を通しての授業改善
 - ・論理的思考力・表現力の育成を中心に、単元構成や課題設定等、以下の(ア)～(ウ)を重点として研究を深めることで論理的思考力・表現力を高め、「課題を見つけ、自ら学び、解決していく生徒」の育成を目指す。
 - ・園小中で研究での取組の視点を(ア)～(ウ)にそろえることで、より効果があるものにする。
 - (ア)主体的に学ぶ力を育成するための単元構成の在り方
 - (イ)主体的に学ぶ力を育成するための課題（「問い」）を設定する工夫
 - (ウ)評価の工夫
 - めあてを達成した児童生徒の姿を明確にする。（ゴールを明確にした指導）
 - 「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の工夫、ふり返り活動の充実
- ②総合的な学習の時間等において、課題発見・解決学習の充実
 - ・生徒自らが地域課題を見つけ、解決方法を提案する学習（全体総合：未来貢献プロジェクト）を充実させるための工夫を行う。その際、生徒が研究成果を表現する場を設定し、達成感を得られるような探究活動にする。
- ③園小中の児童生徒等による交流活動を計画的に実施
 - ・園・小・中のそれぞれのステージで一貫性・継続性のある取組を進める。
 - ・小さな交流（異年齢交流、生徒会児童会交流等）を充実させる。
 - ・園小中の教員の交流を深め、情報共有を行い、15年連携教育で目指す15歳でのゴールの姿に近づくように努める。
 - ・園・小・中合同行事の在り方を模索し、実施する。

(6) 検証の指標

- ① 生徒アンケート「自ら勉強の計画を立て、自らすすんで勉強しています」の割合
- ② 教職員アンケート「総合的な学習の時間の学びが相互に活用できるよう、横断的な学びで基礎学力の向上を図っているか」の割合
- ③ 生徒アンケート「自分にはいいところがある」に肯定的に答えている生徒の割合

(7) 到達目標

- ① 生徒アンケート「自ら勉強の計画を立て、自らすすんで勉強しています」の割合が75%以上
- ② 教職員アンケート「総合的な学習の時間の学びで基礎学力の向上を図っているか」の割合が70%以上
- ③ 生徒アンケート「自分にはいいところがある」に肯定的に答えている生徒の割合が80%以上

4 指導・助言者

氏 名	所属・職名等	備 考
林原 慎	福山市立大学教育学部児童教育学科 教授	
正保正 恵	福山市立大学教育学部児童教育学科 教授	
太田直 樹	福山市立大学教育学部児童教育学科 准教授	
中居すみ江	沼隈特別支援学校 教諭	相談支援部長
	尾道市教育委員会指導主事等	

5 研究計画

(1) 授業研究（一人1研究授業関係）

月 日	研 究 内 容	講 師
5月24日（金）	校内研修 英語科研究授業	林原慎教授 (福山市立大学)
7月11日（木）	園小中合同研修 道徳科研究授業 作業科研究授業(特別支援・知的)	尾道市教委指導主事等 中居すみ江教諭 (沼隈特別支援学校)
9月12日（木）	中授業公開 家庭科研究授業 国語科研究授業	正保 正恵教授 (福山市立大学) 尾道市教委指導主事

1 1 月 2 1 日（木）	校内研修 数学科学研究授業 数学科学研究授業(特別支援・知的)	太田 直樹准教授 （福山市立大学） 中居すみ江教諭 （沼隈特別支援学校）
1 月 3 0 日（木）	校内研修 社会科学研究授業 保健体育科学研究授業	林原慎教授 （福山市立大学） 尾道市教委指導主事等

（２）園小中の児童生徒等による交流活動関係

月	学年以外の交流	学年ごとの交流
4	ええじゃん交流（園小）（園中）	
5	園小中合同避難訓練	
6	小中合同運動会（小中）	
8		職場体験（園中）
10	生徒会地域貢献活動（小中）	
12		保育実習（園・中３）
2		職場見学（中１）

※ 生徒会・児童会が関われる行事はできるかぎり，連携する。